

| | | |
|------|-------------|------|
| 方面 | 春季演習場定期整備 | (1面) |
| 1師団 | 第1師団記念行事 | (3面) |
| 12旅団 | 第1・2旅団記念行事 | (4面) |
| 1施設団 | 春季演習場定期整備 | (5面) |
| 関東補処 | 新規採用事務官等入省式 | (5面) |



令和4年5月25日 第1048号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「克己」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

丹精込めて「道場」整備

方面隊春季演習場定期整備



射場のり面を整備する油圧ショベル

方面隊は4月9日から22日までの間、東富士演習場及び北富士演習場において令和4年度方面隊春季演習場定期整備を実施した。

各演習場ではそれぞれの運用構想に基づき、教育訓練のニーズに合わせた基盤を整備するため、機動展開地域の伐採、戦闘射場の機能拡充、接近経路の追加・連接等が



伐採した木材を運搬する隊員



総監訓話を熱心に聴く中隊長等



活発な意見が出たグループ討議

「後で振り返った時、中隊長勤務時代が本当に貴重な時期であったことに気付く。指揮官には多くの部下がついており、そのため個人の自衛官という立場ではないことを自覚すべきである。このため自らを律し、甘えを排除し、貴重な指揮官職という期間を過ぎし

訓練は中隊長等の職務遂行能力向上を目的として、総監訓話、識能教育、参加中隊長等による討議が行われた。

また討議においては、参加者を10人前後のグループに区分し、「中隊長等の任務遂行能力を向上させるため、職務分析を踏まえ、中隊長等として取り組むべき事項」を討議テーマとして、活発な討議が行われた。参加者はさまざまな視点から発せられる意見交換を通じて、多様な考えを学ぶとともに、中隊長として共感できる問題点等も把握し、今後の職務遂行の資を得ることができた。

訓練に参加した第48普通科連隊本部管理中隊長櫻井3佐は「他職種の中隊長との討議を通じ、共通の部隊・隊員の悩みや、工夫した施策等により前向きに取り組むという前向きな話を聞き参考になった。他の中隊長等も熱意をもって隊務に励み、互いに切磋琢磨して強靱な東部方面隊の創造に寄与できるよう精進していきたい」と語った。

強靱な方面隊目指し能力向上

方面隊は4月6日、朝霞駐屯地において方面直轄部隊の中隊長等112人に対し、令和4年度第1回中隊長等集合訓練を実施した。

実施された。また整備資材として民生品等の活用も積極的に行われ、効率的な整備の促進を図った。さらに第1施設団最先任上級曹長を長とした施設技術指導班を編成し、各整備部隊に対して施設技術に関する基本的事項について巡回指導

し、練度向上とその普及徹底に努めた。



U字溝を整備する隊員

方面隊はわれわれの「道場」である演習場を引

き続き丹精こめて整備し、その機能向上とより

実践的な訓練環境の構築を図る。 関連 5面



施設技術に関する巡回指導

在日米海軍司令官表敬 日米の連携強化を図る

方面隊は4月19日、朝霞駐屯地において在日米海軍司令官カールA・ラティ少将の表敬を受けた。

ラティ少将は令和3年7月14日に第44代在日米海軍司令官及び米海軍日本管区司令官に就任して以来、国防上級功労章、部隊勲功章をはじめとする数々の部隊章や従軍章を受章しており、今回が就任後初めての表敬となった。

当日は懇談・会食等の場において、総監及び師団長と日米間のさらなる連携強化等について、さまざまな意見が取り交わされた。



記念品を交換するラティ少将と総監



意見交換の様子

新規オピニオンリーダー委嘱式 各地域での情報発信に期待

方面隊は4月21日、朝霞駐屯地において令和4年度東部方面隊オピニオンリーダー新規委嘱状付式を実施し、新規委嘱



昼食会で抱負を話すオピニオンリーダー

者11人中、9人が参加した。式に先立ち東部方面音楽隊によるクラリネット4重奏の演奏が行われ、



委嘱式終了後の記念撮影

一人一人委嘱状をのりしい表情で受け取った。その後、総監は「我々東部方面隊は、都十県の防衛任務や災害派遣任務等を担っており、いかなる場合にも対応できるように常日頃から備えております。皆様にはその様子をご覧いただくことで理解を深めていただき、自衛隊の真の姿を発信・普及して

真の姿を発信・普及していただくべく思っております。また我々に対しては、忌憚のない意見を伺いたく存じます。新型コロナウイルス感染症の状況はまだまだ厳しいものではありますが、可能な限り行事や研修等を計画していきます。何とぞこれを機に末永くお付き合いください」と挨拶した。関係者が一同に会した昼食会では各オピニオンリーダーが自己紹介を兼ねて抱負や自衛隊への思いなどを語られた。会食後の写真撮影に引き続き、オピニオンリーダーは、東部方面隊の活動状況に係る説明受け、オピニオンリーダー会役員との懇談及び広報センターの見学等に参加し、今後オピニオンリーダーとして活動するための知識を深めた。

地方協力本部長等会議 各地本の成果・問題点を共有



各地本ごとの発表

方面隊は4月15日、朝霞駐屯地において令和4年度第1回地方協力本部長等会議を実施した。本会議は総監企図の徹底及び今後の活動の方向性について認識の統一を図ることを目的として、各地本長等の他、内局、各幕僚監部、第1師団、第12旅団、東部方面混成団、海・空自衛隊及び北関東防衛局の関係者等が参加した。内容としては各地本から創意工夫を凝らした施策の発表や総監部及び各部隊等からの連絡・徹底事項の説明を



訓示する総監

ける災害派遣等授業の担任など、募集対象者に向けたさまざまな施策が発表された。これにより各地本の取り組みが共有され、良い施策は他の各地でも取り入れられる素地ができたため、今後の相乗効果が期待できる。

広報センター

多くの来場者を笑顔に 特別イベントやファミリーコンサートを開催

広報センターは4月9日に体験型の特別イベントを、24日にファミリー



特別イベントでロープワークを体験する来場者

コンサートをそれぞれ実施し、多くの親子連れや高校生で賑わった。



幅広い世代の来場者が楽しんだファミリーコンサート

9日には心地よい春の日差しの中「いざというとき役に立つ」ロープワーク体験では、水害時に救助を待つ間に



流されないようにするための「身体もやい結び」を、隊員の丁寧な説明により多くの参加者がマスターした。また歩測体験の体験イベントでは、歩幅で測定した距離を野外電話機を使って解答し、見事距離を正解させた参加者には特製の景品が手渡された。さらに自衛隊体操の体験では、ダイエットに効果的な3種類の体操を来場者に体験してもらった。

なお4月1日から広報センターの勤務員に、内田非常勤が新たに加わった。広報センター長はフレッシュなメンバーが加わってくれた。彼女には徐々に慣れてもらった上で、自衛隊では気付かない新たな視点による「おもてなし」を期待していると語った。

武山駐屯地総監初度視察 模擬銃製作の功績でメダル授与



展示用重機関銃を視察する総監



総監からメダルを授与される森3佐以下3人の隊員

視察では状況報告、施設巡視により部隊の現況及び能力等について把握するとともに総監訓示等を行い、総監の企図を徹底した。

また「広報展示用の戦車等は努めてリアルな状態で展示すべき」という総監指導を踏まえ、他駐屯地でも参考とできるような設計図の作成に着手し、創意工夫を凝らして精巧な展示用重機関銃の製作に尽力した業務隊総務科長森3佐以下3人の隊員に対し、総監から記念メダルが授与された。

第1師団

3年ぶり！練馬駐屯地に活気溢れる！
師団創立60周年・練馬駐屯地創設71周年記念行事



執行者(写真前方車両)と東京都知事(写真後方車両)による巡閲



リベリングにより入場する執行者(師団長 写真左)と観閲部隊指揮官(副師団長 写真右)

岸防衛大臣より表彰
防衛省で表彰式

師団は3月23日、防衛省(市ヶ谷)において、令和3年7月1日からの大雨による災害派遣に尽力した功績により、岸防衛大臣から表彰状を授与された。



岸防衛大臣から表彰状を授与される師団長

第1師団は4月10日、練馬駐屯地において「第1師団創立60周年・練馬駐屯地創設71周年記念行事」を挙行し、第1師団及び練馬駐屯地に対する地域住民の理解と信頼を深めるとともに隊員の使命の自覚と士気の高揚を図った。



来賓に対し式辞を述べる執行者

当日は天候に恵まれ、師団及び練馬駐屯地に対する地域住民の理解と信頼を深めるとともに隊員の使命の自覚と士気の高揚を図った。

招待者、師団の協力者や地域住民等約2300人が駐屯地を訪れた。式典は執行者(師団長)及び観閲部隊指揮官(副師団長)のリベリングによる入場から始まった。その後、観閲部隊の人員約800人が師団の威容を示した。



祝辞を述べる小池都知事

第1回師団施設合同訓練を実施
障害処理及び障害構成の練度向上を図る

師団は3月31日から4月2日までの間、東富士



携帯障害処理器材を設置する隊員

演習場において師団隷下部隊の障害処理及び障害構成の練度向上を図ることを目的とし、令和4年度第1回施設合同訓練を

実施した。

本訓練は前段(3月31日から4月1日)と後段(4月2日)に分けて実施した。

前段は普通科連隊の隊員を中心に、複合障害(地雷及び対戦車壕)の偵察から障害処理までを一連の状況下で行い、その

の景況を隊員たちに確認させた。また携帯障害処理器材、導爆線等を用いた鉄条網の処理要領について教育訓練した。後段は師団隷下部隊による対人



1偵戦大(16式機動戦闘車)による部隊紹介



ロープ渡りをする来場者

協力が必要です。電気・ガス水道・通信交通・医療などの指定公共機関のライフラインは首都機能の生命線です。防衛産業は日本の防衛力そのものです。フル稼働で装備品等き自衛隊の行動に関する

ご理解ご協力をお願いします。加えて普段自衛隊とはなかなか接することのない市民の皆様へ我が国防衛や自衛隊の現状について啓発していただければと思います」と式辞を述べた。

小池都知事は「首都東京、都民・国民の生命と財産を守るため、兒玉師団長の指揮の下、強い責任感と使命感をもって、任務に精励されることを心から期待いたします」と祝辞を述べた。

本年度の記念行事は、観閲行進は行わず、各部隊の特性を生かした動的展示と静的展示による部隊紹介を行った。特に注目されたのは、今年度より新編された第1偵察戦闘大隊の16式機動戦闘

車の迫力ある性能展示であり、来場者のどよめきと大きな拍手が沸き起こった。装備品展示では各種装備品がどの様に機能を発揮するかにあわせて、来場者に分かりやすく理解して頂くため、装備品の動的な展示をツアー形式で行った。間近で動く装備品を見た来場者からは「初めて近くで動いているのを見て感動した。迫力がある格好良い」等の感想があった。

保全標語で2名を表彰
情報・保全意識の高揚・保全事案防止を図る

師団は4月8日、情報保全標語の優秀作品に選出された2人の隊員に対して、師団長表彰を実施した。



1飛 濱口2尉



1高大 阿部士長

情報保全標語は情報保全期間中に、隊員の情報勝ちへの一歩は、保全から」と第1高射特科大隊

の結果、第1飛行隊濱口2尉の作品「デジタル戦勝への一歩は、保全から」と第1高射特科大隊阿部士長の作品「身を守る口も心もマスクして」の2点を選出され師団長から表彰状を授与された。

案防止等に資する目的で募集し、各隷下部隊は厳選した1点を師団司令部に提出した。司令部での厳選な審査の結果、第1飛行隊濱口2尉の作品「デジタル戦勝への一歩は、保全から」と第1高射特科大隊阿部士長の作品「身を守る口も心もマスクして」の2点を選出され師団長から表彰状を授与された。

第12旅団

3年ぶりに記念行事を開催 特科隊偵察隊対戦車中隊は最後の記念行事

旅団は4月8日、相馬原駐屯地及び相馬原飛行場において、第12旅団創立21周年及び相馬原駐屯地創設63周年記念行事を開催した。3年ぶりの開催となった本行事は、本年度まで廃止となる第12特科隊及び第12対戦車中隊、また改編となる第12偵察隊の3コ部隊の功績を称えるとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、隊員が主体として楽しめる形式の部内行事として実施した。



観閲式に臨む第12旅団隷下部隊と相馬原駐屯部隊



観閲式において巡閲する旅団長

本記念行事は第12旅団創立21周年及び相馬原駐屯地創設63周年を祝うとともに、第12特科隊及び第12対戦車中隊が本年度まで廃止となり、また第12偵察隊が第12偵察戦闘大隊へと改編される機動旅団化に向けた大きな節目という特性を踏まえている。この節目において隊員の使命の自覚と士気の高揚及び団結の強化を図る目的で観閲式、部隊行進、オ



祝砲を響かせる第12特科隊のFH-70



79式対舟艇対戦車誘導弾の操法展示を実施する第12対戦車中隊の隊員

トバイドリル、操法展示、太鼓演奏、音楽演奏・祝砲及び祝賀飛行などを実施し、参加した隊員全員がその雄姿を確認した。

観閲式において執行者地たり得るよう、一層精進しなければならぬ。小官もあくなき執念をもって、妥協することなく、諸官とともに挑戦し続けていく覚悟である(要旨)と式辞を述べるとともに「第12旅団の輝かしい将来への発展と相馬原駐屯地のさらなる隆盛を切に願う」と締めくくった。

その後実施された部隊行進では改編が予定されている12偵、また廃止が予定されている12特及び12対戦車中隊が旅団記念行事として最後の車両行進を行い、隊の威容を示すとともに有終の美を飾った。オートバイドリルでは12偵が華麗な操縦技術を披露、また操法展示では12対戦車中隊が79式対舟艇対戦車誘導弾の操法をコミカルな演出を交えて展示し、場を盛り上げた。太鼓演奏では第13普通科連隊が編成する松本アルプス太鼓が荘厳な演奏を披露、また音楽演奏では第12音楽隊が演奏



華麗な操縦技術を披露する第12偵察隊



と歌唱で記念行事に華を添えるとともに、コロポレーションした12特のFH-70は、旅団の21周年にちなんで21発の祝砲を響かせた。さらに第12ヘリコプター隊は、改編される部隊の新しい門出を祝うとともに、廃止される部隊の功績を称える祝賀飛行を行った。

旅団は3年ぶりの記念行事に参加隊員が楽しめる形式で祝うとともに、部隊改編を見据え新たな一歩を踏み出した。

旅団は4月11日から15日までの間、相馬原演習場において第12施設隊長を担任官として旅団隷下各部隊から参加した隊員に対し、令和4年度旅団施設合同訓練を実施した。本訓練は旅団中期訓練計画に基づき、防御が重視課

令和4年度旅団施設合同訓練 各部隊の築城能力を向上



旅団は4月11日から15日までの間、相馬原演習場において第12施設隊長を担任官として旅団隷下各部隊から参加した隊員に対し、令和4年度旅団施設合同訓練を実施した。本訓練は旅団中期訓練計画に基づき、防御が重視課

目初年度となる部隊の陣地構築に必要な知識及び技術を向上させる目的で各部隊のニーズに応じた掩体構築をそれぞれの部隊ごとに演練した。また幹部自衛官には構築位置の選定、指導・点検及び工事管理(作業計画の作成・修正)を、その他の隊員には状況に応じた陣地の構築を主要演練項目として訓練した。

指導部で参加した施設隊(新屋(しんや)3曹)は「訓練を通じ感じたことは『こう教えたなら理解できるか』です。被教育者が100パーセント理解できるようにもつと自らの理解度を深めないといけないと改めて感じました」と教育の難しさを語るとともに意気込みを新たにしました。

旅団は本訓練で得た成果を今後の訓練の資とし、さらなる陣地構築能力の向上を図る。

宇都宮駐屯地及び新町駐屯地でも記念行事を開催



観閲行進を実施する第12後方支援隊衛生隊

新町駐屯地創設71周年記念行事
良き伝統を継承しつつ
新たな要求に応える



観閲式において式辞を述べる宇都宮駐屯地司令

宇都宮駐屯地創設72周年記念行事
信頼と貢献を合言葉に

新町駐屯地(駐屯地司令第12後方支援隊長 川畑1佐)は4月1日、新町駐屯地において駐屯地創設71周年記念行事を挙行了した。式辞において執行者(駐屯地司令)は「諸先輩方が多くの苦勞を乗り越え築き上げてきた駐屯地の良き伝統を継承しつつ、新たな時代の要求に応える。引き続き『新町には自衛隊がいるから安心』と地域の皆様から頼られる存在であり続けられるよう、各部隊が一丸となり、新町駐屯地としての更なる充実・発展を目指す(要旨)」と決意を述べた。

宇都宮駐屯地(駐屯地司令第12特科隊長 藤本1佐)は4月3日、宇都宮駐屯地において駐屯地創設72周年記念行事を挙行了した。式辞において執行者(駐屯地司令)は「何時如何なる任務にも即動し、任務を完遂し得る逞しい部隊」を目指し、日頃から心身を鍛え、技術を磨くとともに、県や市町、そして警察、消防の方々と連携を深化させつつ『信頼と貢献』を合言葉として、我が国の防衛はもとより栃木県民の安心・安全及び地域の発展に寄与して参ります(要旨)」と決意を述べた。

真新しい制服に身を包み入隊式に臨む自衛官候補生(新町駐屯地)

桜舞う中教育隊に集う
自衛官候補生入隊
旅団隷下各駐屯地では、令和4年度の新隊員教育隊を編成し、3月下旬から逐次、自衛官候補生の受け入れを実施し、入隊式を経て課程教育を開始した。宇都宮駐屯地(第12特科隊)、新町駐屯地(第12後方支援隊)、高田駐屯地(第2普通科連隊)、新発田駐屯地(第30普通科連隊)及び松本駐屯地(第13普通科連隊)で計254人の自衛官候補生が真新しい制服に袖を通し、自衛官の世界に足を踏み入れた。

自衛官候補生を一人前の自衛官とするべく、教官助教には厳しくも愛のある指導により彼らを鍛えていく。

第1施設団

東・北富士演習場定期整備に邁進

作戦遂行能力向上に資する演習場の最適化に寄与

施設団は4月9日から21日までの間、令和4年度春季東・北富士演習場定期整備を担任・実施した。演習場整備実施に当たり整備隊は、人員約2500人・車両約840両・施設器材約110台による、東・北富士演習場整備隊を編成した。整備開始に先立ち行われた指揮官会議の場において担任官である施設団長は「演習場整備の目的



グレーダによる機動路整備



戦車道の改修(D-Boxの設置)

は方面演習場等運用・整備中期構想に基づき、作戦遂行能力向上に資する演習場運用構想に合致した整備を推進するとともに、各演習場の長期安定使用に寄与するに資する」と訓示し、担任官として「運用構想に合致した整備の推進」、「組織力の最大限発揮による任務の完了の2点を、整備隊長として指揮の要訣の実践」、「工程管理・作業管理・品質管理」、「健康管理・安全管理」の3点を要望した。

整備内容は機動路(平塚道・雄鹿道)、訓練地域(G地区・各射場の整備)また機動路の維持・改修のためD-Box、排水設備(ホックスカルバート)の設置等を実施した。また整備間、安全管理を徹底するとともに、東部方面衛生隊の隊員による衛生指導の下、新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止の徹底を図った。さらに期間を通じ、SNSを活用した情報発信を行い、人力及び機械力を用いた演習場整備の様子等、整備部隊の活動や自衛隊に対する理解の促進及び隊員の士気の高揚に努めた。

17日及び18日は総監による現地視察があり、効果的かつ効率的な整備状況について確認するとともに激励を受けた。担任官は17日以降、各整備地区の点検を行い、現場において隊員の労をねぎらうとともに、今回の演習場整備の教訓を収集・整理し、今後の演習場整備の任務を完了した。

場整備に反映するよう各整備隊長に示し、令和4年度春季東・北富士演習場整備の任務を完了した。



総監に整備内容を説明する中隊長

D-Boxとは？
地盤補強と振動低減効果を同時に実現できる大型の土のうホックスカルバートとは？
地中に埋設され、水路や通信線などの収容に使われる箱型のコンクリート建造物

QR codes and social media links for YouTube and Twitter. Includes the JGSDF logo.

共同能力構築支援へ向け計画具体化

3月10日から19日までの間、防衛省が実施する東ティモールにおける共同能力構築支援に関する事前調整出張に施設団から4人の隊員が参加した。

派遣隊員は豪陸軍が主催する東ティモール国防軍に対する共同能力構築支援(ハリー・ハムトゥック22)に関する中間計画会議に参加し、関係各国軍との意見交換を行うとともに、陸自が担当する施設分野の教育に必要な資器材・車両・教育場所等の各種調整を行った。

派遣された隊員は、東ティモール国防軍の能力構築はもろんのこと、わが国にとって望ましい安全保障環境の創出に寄与するべく、本年8月から9月にかけて実施されるハリー・ハムトゥック22参加の資を得た。



関係各国軍との各種調整

関東補給処

新規採用事務官等入省式 決意と覚悟を秘めた新戦力



辞令書手交の様子



サービスの宣誓を実施する新規採用者

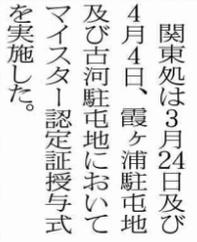
関東補給処は4月1日、本処及び松戸・古河・用賀・吉井各支処において令和4年度防衛省新規採用者29人の入省式を、それぞれ本処(霞ヶ浦駐屯地)においては18人の新規採用者が入省式に参加し、式典後に国歌を静聴し、新任官が辞令書を交付された後、力強くサービスの宣誓を実施した。また防衛省からは18人の新規採用者が入省式に参加し、式典後に国歌を静聴し、新任官が辞令書を交付された後、力強くサービスの宣誓を実施した。



説示を述べる処長

新任官が辞令書を交付された後、力強くサービスの宣誓を実施した。また防衛省からは18人の新規採用者が入省式に参加し、式典後に国歌を静聴し、新任官が辞令書を交付された後、力強くサービスの宣誓を実施した。

マイスター認定証授与式 卓越した技能を顕彰



処長よりマイスター認定証を授与される本処水澤技官



処長よりマイスター認定証を授与される本処水澤技官

関東補給処は3月24日及び4月4日、霞ヶ浦駐屯地及び古河駐屯地においてマイスター認定証授与式を実施した。マイスターとはドイツ語で「巨匠」や「名人」を意味する言葉である。本認定制度は卓越した高度な技術・技能を有する隊員をマイスターとして認定することにより、職務遂行能力の向上を促し、職務を通じた自信と誇りを保持させ、真に支援できる隊員を育成することを目的に行われている。認定基準はその技術の難易度によってゴールド(極めて困難)、シルバ(困難)、ブロンズ(やや困難)に等級分けされており、本処水澤技官及び榎田技官(4月1日付で市ヶ谷システム開発隊に異動がセキュリティ技術において「ゴールドマイスター」を、古河支処岩田技官がフォークリフト技術操作において「ブロンズマイスター」の称号をそれぞれ授与された。マイスターと認められた3人のさらなる活躍が期待される。

3年ぶり

大会運営に積極貢献



選手団を先導する車両

隊員は大会運営関係者と連携を図りながら、小型トラックを用いた選手団先導、業務車を用いた審判員輸送、各定点における給水支援等を実施し、円滑な大会運営に寄与して地域住民に霞ヶ浦駐屯地の存在をアピールした。先導車の操縦手を務めた小澤3曹は「先導という重要な任務を無事達成できてよかった」と語り、他の支援隊員とともに無事任務を完了した。

霞ヶ浦駐屯地は4月17日、土浦市川口運動公園陸上競技場において開催された「第32回かすみがうらマラソン」に、関東補給処、第101全般支援隊及び第103補給大隊から21人の隊員を派遣し、大会運営を支援した。本大会は新型コロナウイルスウィルス感染症拡大に伴い中止になって以来、実に3年ぶりの開催となり、会場は約9千人の参加者の熱気に包まれ盛況であった。



給水支援中の隊員

QR codes and social media links for the camp's website and Twitter. Includes the camp's name and location.

2高群 令和4年度射撃準備訓練

強靱な高射中隊を目指し始動！



発射装置の射撃準備を行う第334高射中隊



射撃用レーダ装置を準備する第336高射中隊

第2高射特科群は4月11日から12日及び4月18日から19日までの間、下志津駐屯地及び柏高射教育訓練場において令和4年度射撃準備訓練を実施した。

本訓練は高射中隊の対空作戦遂行能力の基礎となる射撃準備等の練度を向上させるため全高射中隊に対して実施するもので、今回は第334高射中隊（下志津）と第336高射中隊（柏）に対しての指導が行われた。

本指導を終え、第334高射中隊射撃小隊長の高橋3尉は「射撃小隊は限られた人員・訓練機会の中で射撃準備訓練群指導に向けて練成訓練を実施してきました。本指導での成果を今後の訓練に反映させ、6月の中隊検閲を当面の目標としてさらなる練度の向上を図っていく所存です」と熱く意気込みを述べた。

両中隊は6月に実施される高射中隊野外行動訓練検閲を見据えての新編成で群指導に臨み、練度向上の心意気を得た。首都防空を担う第2高射特科群としての誇りを胸に、互いに切磋琢磨し合いながら日々の訓練にまい進している。

各入隊式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から内部者のみで実施したが、入隊式の状況は「公式チャンネル東部方面隊」内で映像配信し、閲覧が可能となっている。

各入隊式に参列した男性隊員929人、女性隊員481人、総勢1410人の隊員が希望と期待を胸に、北は北海道から南は沖縄と全国各地からそれぞれの駐屯地に着隊した。

新隊員たちは今後、約3カ月間にわたり、自衛官として必要な資質を養うとともに基礎的知識及び技能を学び、同期と切磋琢磨しながら教育に精励していくこととなる。

新隊員たちの自衛官としての成長に期待したい。

混成団

新隊員課程教育開始！ 総勢1410名が着隊



入隊の申告を行う第117教育大隊の新隊員



サービスの宣誓を行う女性自衛官教育隊の新隊員

東部方面混成団は令和4年度の新隊員教育を開始した。

第117教育大隊は4月9日、武山駐屯地において「第18期一般陸曹候補生課程入隊式」を、女性自衛官教育隊は4月10日、朝霞駐屯地において「第18期一般陸曹候補生課程及び第19期自衛官候補生課程入隊式」を東部方面システム通信群の撮影支援及び東部方面音楽隊の演奏支援を受けそれぞれ実施した。

各入隊式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から内部者のみで実施したが、入隊式の状況は「公式チャンネル東部方面隊」内で映像配信し、閲覧が可能となっている。

各入隊式に参列した男性隊員929人、女性隊員481人、総勢1410人の隊員が希望と期待を胸に、北は北海道から南は沖縄と全国各地からそれぞれの駐屯地に着隊した。

新隊員たちは今後、約3カ月間にわたり、自衛官として必要な資質を養うとともに基礎的知識及び技能を学び、同期と切磋琢磨しながら教育に精励していくこととなる。

新隊員たちの自衛官としての成長に期待したい。

後支援

創隊20周年記念行事 3年ぶりに式典挙行



470人が参列した記念式典



感謝状贈呈の様子

東部方面後方支援隊は4月23日、朝霞駐屯地において創隊20周年記念行事を実施した。

記念行事は新型コロナウイルス感染症の影響で2年間中止しており、20周年の節目の年においても開催が危ぶまれる中、感謝対策を万全にして、

感謝状贈呈式、記念式典及び祝賀会食を実施した。

感謝状贈呈式においては日頃より後方支援隊に対し、多大なるご支援で

協力をお願いいただいた5人の方々に感謝状を贈呈した。

記念式典は17コ隸下部隊470人が参列し、OB連合会長、後援会長、歴代隊長・副隊長及び各部隊OBの来賓臨席の下、整齊と執り行われた。

また祝賀会食は、感謝状受賞者、後援会、歴代隊長等、参加人員をさらに迎えた後方支援隊は「隊務を総合的に見直す年度」と位置付け、現状にそぐわない又は形骸化したものを見直し、業務の効率化・合理化を推進している。また諸先輩方が築き上げた良き伝統を継承しつつ、いかなる任務も必遂できる強靱な野戦兵站部隊としてさらなる発展を目指し、国民の負託に応えるべく、任務にまい進していく。

後方支援隊は平成14年3月、部隊整備・野整備機能の集約一元化という後方支援体制の移行に伴い、東部方面武器隊を基幹として創隊され、幾多の部隊改編を経て、現在に至っている。

20年という大きな節目を迎えた後方支援隊は「隊務を総合的に見直す年度」と位置付け、現状にそぐわない又は形骸化したものを見直し、業務の効率化・合理化を推進している。また諸先輩方が築き上げた良き伝統を継承しつつ、いかなる任務も必遂できる強靱な野戦兵站部隊としてさらなる発展を目指し、国民の負託に応えるべく、任務にまい進していく。

シ通群

東京地本装備品展示支援で 地域住民へ自衛隊をアピール



装備品展示の様子



乗車体験をする地域の方との記念撮影

東部方面システム通信 東京地方協力本部が「春の交通安全運動」で実施した。品展示を支援した。

当日は高島平緑地公園にて、本部中隊の隊員が小型トラックを展示し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ運転席・助手席等への乗車体験を実施して広報活動に寄与した。

シ通群は今回の活動を通して、緊張感の高まる昨今の国外情勢の中、来場者になれわれ自衛隊の存在を近くに感じてもらう、自衛隊に対する国民の理解に大きく貢献した。

当日は高島平緑地公園にて、本部中隊の隊員が小型トラックを展示し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ運転席・助手席等への乗車体験を実施して広報活動に寄与した。

シ通群は今回の活動を通して、緊張感の高まる昨今の国外情勢の中、来場者になれわれ自衛隊の存在を近くに感じてもらう、自衛隊に対する国民の理解に大きく貢献した。

朝霞駐屯地

防衛・駐屯地モニター委嘱式

自衛隊・駐屯地の理解深める

朝霞駐屯地は4月10日、令和4年度防衛モニター及び駐屯地モニター委嘱式を実施した。式では駐屯地司令が委



委嘱式終了後の記念撮影

嘱状を各モニターに手渡し、令和4年度防衛モニターとともに「防衛省自衛隊及び朝霞駐屯地に関する幅広い発信と自衛隊の活動に対する部外目録で



輸送学校を見学する各モニター

し、その後、体育学校、輸送学校等の見学を行って、各部隊等の特性について理解を深めた様子であった。

大宮業務隊

緊急登庁支援訓練としてキッズサポートセンターを開設



保護者と子どもの健康状態を確認する隊員

大宮駐屯地業務隊は4月11日から21日までの間、大宮駐屯地業務隊事態対処訓練を実施した。本訓練は年度当初に事態対処訓練を実施し、有事・災害等発生時にお

付 施した。コロナ禍の中、予防対策を万全にし、隊員が安心して任務にまい進し得る環境を構築し、明るく、楽しくをモットーに訓練に臨んだ。

立川駐屯地

「家族の日」開催し 隊員家族相互の親睦を図る

立川駐屯地は3月27日「家族の職場への理解促進及び4月2、3日、隊員と隊員家族相互の親睦を

ある！ある！自衛隊



展示機などで楽しむ隊員家族



花の植付け体験をする隊員家族

目的とし、多くの家族が参加できるよう週末に分散して「家族の日」を開催し、駐屯地を開放した。特に2日は穏やかな天候と満開の桜が文字通り花を添え、営庭で家族ごと持参した弁当を食べた

り、史料館で駐屯地の歴史を見学、展示機では操縦士気分撮影、金魚へのエサやりなど、ゆつたりと家族の団らん及び隊員家族相互の交流を楽しんだ。また庁舎前の花壇において昨年好評であ



有線放送で自衛隊の魅力を発信する橋本3海曹

た「花の植え付け体験」を行い、父や母が働く駐屯地で楽しいひとときを過ごした。立川駐屯地は引き続き、感染症対策に万全を期すとともに風通しの良い駐屯地運営に努める。

業務隊厚生科は各種事態発生後を想定し、緊急登庁支援訓練として「キッズサポートセンター」の開設・運営訓練を新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりに実



班組訓練に参加して

訓練所感 第三〇四中樞交換通信中隊 3等陸曹 飯島 正幸

る各科の対処行動について演練して認識統一及び対処能力の向上を図り、定期異動後においても持続的に支援し得る態勢を早期に確立する目的で実施した。

基礎的事項の認識統一、事前予行を何回も行い、万全の状態での訓練に参加しました。その結果、訓練の行動については比較的に円滑に実行することができました。

大宮駐屯地業務隊は今後も、部隊の即応性強化に寄与するため、真に役立つ緊急登庁支援体制の確立に向けて実効性を高めていきたい。

静岡地本

有線放送で魅力発信 新隊員に力強くエール

自衛隊静岡地方協力本部 浜北募集案内所は3月22日、みっかび町農協有線放送室(浜松市)において三ヶ日有線放送の収録に臨んだ。

ではなく地上勤務で航空機整備をしていたことを紹介すると、有線放送の担当者も、海上自衛官が航空機の整備をしていることに驚く場面もあった。

訓練終了後のアンケート調査で保護者からは「施設内が安全で隊員も健康状態などを、きめ細かく説明し、保護者は安心した様子で帰途について、は「楽しかった。また来

るようになった。保護者への引き渡しでは、1日を過ごした様子、健康状態などを、きめ細かく説明し、保護者は安心した様子で帰途について、は「楽しかった。また来

面があると思いますが、教育の中で身に付けたことは、これからの生活に生かすことができ、自分の成長を感じられると思います」と、自身の体験をもとに力強くエールを送った。

最前任 上級曹長

「部隊の宝と信頼」 第13普通科連隊 藤森 博 准陸尉

令和3年3月15日付で第13普通科連隊第7代最前任上級曹長を拝命した藤森准尉です。

第12旅団は全国唯一の空中機動性を高めた部隊であり、我が13連隊は長野県唯一の郷土部隊として松本の地に駐屯してい



で勤務しています。第12旅団は全国唯一の空中機動性を高めた部隊であり、我が13連隊は長野県唯一の郷土部隊として松本の地に駐屯してい

は、困難な地形・気象・状況克服し任務遂行を果たした部隊です。連隊長 鏡森 一 佐を核

心とし、統率方針「即応完遂」を具現化すべく、あらゆる事態に即応し、強い意志を持って必ず事

成し遂げる「気概」「気力」「実力」を隊員一人一人が磨き上げ積み重ねています。

2つ目は「信頼」です。真の強さとは仲間を思い遣り、助け合う力、そして信じる心です。

報恩謝徳、常に感謝の念を忘れず「ありがとう」が言える、陰日向ない指導を意識し実行していきます。

即応予備自衛官 第31普通科連隊 秋山 孝太 陸士長 小松 孝輔 陸士長

平成29年に即応予備自衛官として第2中隊



秋山士長は「さらに特技能力の向上に努め、3等陸曹への昇任を目指し、また小銃分隊長として中隊検閲に参加

へ配置された秋山士長は小銃手として活躍している。普段は千葉県にある日鉄物流津株式会社構内作業員として勤務しており、物流業務全般及び、社内美化等に関する清掃業務等を担当している。即応予備自衛官招集訓練への参加は、会社の上司や同僚からの理解度も高く、円滑に訓練に参加

する等、中隊に貢献できると日々精進していきたい」と話した。

秋山士長は「さらに特技能力の向上に努め、3等陸曹への昇任を目指し、また小銃分隊長として中隊検閲に参加



植木と向き合っていることが多く、人付き合いは少ないという。小松士長は「招集訓練では、さまざまな職業の人達が集まり、他業種との情報交換ができる良い機会でもあります。訓練の前は少し緊張しますが、毎回楽しみにしています。今後も先輩や同僚とともに、第4中隊の小銃手として頑張りたい」と話した。

「勇気や希望、感動を伝えたい」 第1音楽隊 柴田 結華 3等陸曹

今月のフェアレディは、第1音楽隊に所属する柴田 結華(ゆか) 3曹です。

演奏していました。(笑) また小学生から映画のサウンドトラック(特にロード・オブ・ザ・リング)が大好きで、自分でも演奏したいと思っただけです。

Q2・自衛隊に入隊したきっかけは？

音楽の力は人のために使われるべきだ。でもその力はどこで発揮することができるのだろうか？と進路を考えていた時、自衛隊にも音楽隊があることを知り、

Q3・休日は何をしていますか？

Q4・現在の職務についての感想は？

Q5・今後の目標は？

柴田3曹は広島県広島市出身。広島文化学園大学 学芸学部 音楽学科を卒業後、平成29年3月に入隊し、練馬駐屯地に所在する第1音楽隊でホルン奏者として活躍しています。



Q1・音楽を始めたきっかけは？

一番のきっかけは、兄の影響です。自然に私も

Q2・現在の職務に就いたきっかけは？

Q3・休日は何をしていますか？

Q4・好きな食べ物は何ですか？

Q5・今後の目標は？

東方男児 「広報陸曹として」 東部方面混成団本部 近藤 誠 2等陸曹

今月の東方男児は、東部方面混成団本部に所属する近藤2曹です。

新潟県聖籠(せいろう)町出身の近藤2曹は、平成18年8月に入隊

し、第30普通科連隊、第3陸曹教育隊を経て、令和2年12月から東部方面混成団本部で勤務し、現在は広報陸曹として日々職務に精励しています。

笑顔が素敵な柴田3曹の、今後の活躍に期待します。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？

Q2・現在の職務に就いたきっかけは？

Q3・休日は何をしていますか？

Q4・好きな食べ物は何ですか？

過去の災害派遣での救助活動や国外での活動をテレビで拝見し、勇敢に救助活動を行う自衛官の姿に心を打たれ、入隊を志願しました。

Q3・休日は何をしていますか？

Q4・好きな食べ物は何ですか？

Q5・今後の目標は？

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？

Q2・現在の職務に就いたきっかけは？

Q3・休日は何をしていますか？

方面混成団本部



広報陸曹として、任務にまい進する近藤2曹の今後の活躍に期待します。

編集後記

ウクライナにおける悲惨な様相をメディアで見ることが日常化した。今、平和の祭典・東京オリンピック・パラリンピックが遠い昔の出来事のように錯覚をおこしてしまっています。不安定な世界情勢、国内外の災害や事故、円安物価高、真偽不明な情報の嵐、技術が進化した優れた枠組がさまざまな努力や歴史が積み重ねられ、何かが邪魔をして歯車が噛み合わず、最善な状態で機能が発揮できないのは残念でならない。今を生きている私たちにできることは何か。それは限られた時間と隊力で任務を達成すること、それぞれの職務に求められることを一つ一つ積み重ねることなのではないかと思う。新型コロナウイルスの影響を受けつつ、効率的に国民を守るための訓練を積み重ねる。皆が幸せを享受できる時代が来ることを信じて。